

■ 【情報】 2026年 鉄鋼産業にも不況感ひたひたと ■ 2026.2.1.

日本の技術力の象徴 鉄鋼産業が岐路に

【1】 昨年の粗鋼生産、57年ぶり低水準 4年連続減の8067万ト — 鉄連

【2】 日本の粗鋼生産、4位に転落 62年ぶり、米国に抜かれる

【1】 昨年の粗鋼生産、57年ぶり低水準 4年連続減の8067万トン—鉄連

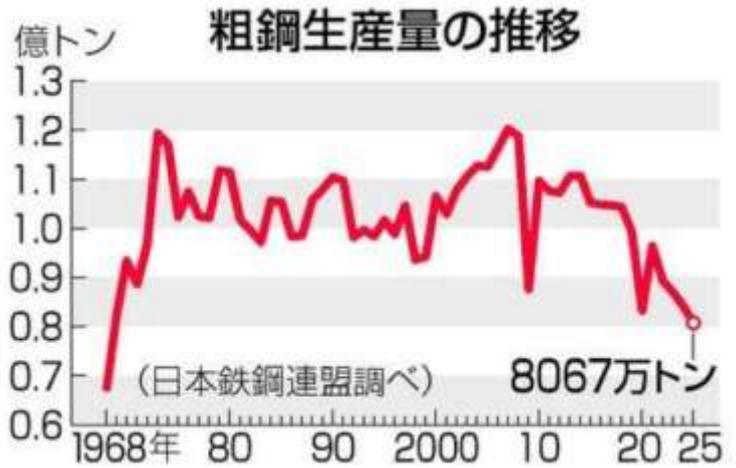
時事通信 経済部 2026年01月22日 16時07分配信

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2026012200837&g=eco>

日本鉄鋼連盟（鉄連）が22日発表した2025年の粗鋼生産量は前年比4.0%減の8067万トンだった。4年連続のマイナスで1968年（6687万トン）以来、57年ぶりの低水準。資材価格の高騰や人手不足で国内の建設需要が落ち込んだほか、中国の過剰輸出による国際市況の低迷が響いた。

[米、深める孤立主義 高関税で通商秩序破壊—トランプ氏就任1年](#)

鋼種別に見ると、主に建設用の普通鋼が4.3%減の6247万トン、自動車など製造業向けが中心の特殊鋼は2.7%減の1820万トン。いずれも4年連続のマイナスだった。



【2】 日本の粗鋼生産、4位に転落 62年ぶり、米国に抜かれる

<https://news.jp/i/13884767862778265862026/01> 2026年1月27日 00時35分 (共同通信)

2025年の日本の粗鋼生産量が前年比4.0%減の8067万トンとなり、世界ランキングで米国に抜かれ、4位に転落したことが26日、分かった。

日本鉄鋼連盟によると、日本が4位になるのは1963年以来62年ぶり。人手不足と資材の高騰に伴う建設需要の低迷や、中国による安価な鋼材の輸出の影響で市況悪化が続いていることが背景。

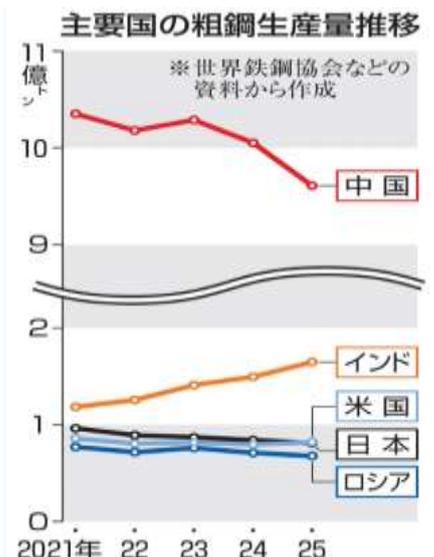
日本の技術力の象徴である産業が岐路に立たされている。

鉄鋼は自動車や家電製品、ビル建設などのインフラ整備にまで幅広く使われ、粗鋼生産量は景気動向を示す重要指標となる。生産規模を維持できなければ業界の国際競争力だけでなく、日本の産業全体に悪影響を及ぼす恐れも出てくる。

世界鉄鋼協会によると、世界首位は中国で、4.4%減の9億6081万トンだった。マイナスは不動産不況による内需低迷やトランプ米政権の追加関税政策が影響したとみられる。

2位は経済成長が続くインドで、10.4%増の1億6488万トン。

3位の米国は経済が堅調で、3.1%増の8195万トンだった。



主要国の粗鋼生産量推移